

第2回 ごみ処理恵庭モデル検討会（議事録）

日時：令和4年4月27日（水）14：30～16：30

場所：恵庭市役所 3階 第1委員会室

出席者：9名 【会長】中尾 文子
【副会長】吉田 英樹
【委員】菅原 伸治・河野 恵美・大嶋 亮馬・落合 信也
平井 梓・石上 一美・槇 愛美

欠席者：1名 【委員】豊田 利之

事務局側：野村 孝治（生活環境部長）・小路 弘樹（生活環境部次長）
中山 真（廃棄物管理課長）・田中 徹（同主幹）・石丸 直稔（同主査）
水野 光代（同主査）・谷村 直宏（同主査）

1. 開 会

2. 委員自己紹介（第1回欠席者）

3. 挨拶（会長）

4. 議 事

（1）第1回ごみ処理恵庭モデル検討会及び施設見学会のまとめ

- ①家庭廃棄物指定袋の売れ行き及び製造単価
- ②粗大ごみコールセンター方式メリットデメリット
- ③リサイクルセンターのあり方について

（2）第2回ごみ処理恵庭モデル検討会議題

- ①市が市民の取組みを促す、ごみ発生から収集までの現状と課題、対応策と成果
- ②市が主体的に行うごみ発生から収集までの現状と課題、対応策と成果
- ③市が主体的に行う廃棄物の収集後、中間処理最終処分までの現状と課題、対応策と成果、市民への影響

（3）第3回以降ごみ処理恵庭モデル検討会の進め方

5. その他

（事務局より「第3回目の検討会は6月22日または同29日を予定していること」を報告。）

6. 閉 会

～議事要旨～

4 議事

(1) 第1回ごみ処理恵庭モデル検討会及び施設見学会のまとめ

～事務局より説明(資料1(1)「家庭廃棄物指定袋の売れ行き及び製造単価等」)～

副会長： 恵庭市では、ごみ袋の売上によって、全体のごみ処理に係るコストの何割程度を賄っているのでしょうか。私が住む室蘭市では3割程度しか賄えていないことから、今年4月にごみ袋の手数料単価を値上げしました。それでも5割も賄えていないと思いますので、残りは税金で負担していますが、そのことがうまく伝わっていない市民からは、ごみ袋が高くなったと言われていました。恵庭市でも、今年4月にごみ袋の手数料単価の値上げによって改善されていると思いますが、実際にはごみ袋の手数料収入の何倍もコストが掛かっていることを市民に伝えていった方がいいと思います。

事務局： 令和2年度では、ごみ処理経費11億2千万円程度に対して、ごみ袋の手数料収入は1億7千万円程度ですので、収入で賄えているのは15%程度となっております。市民アンケートでは、この情報も伝えながら、今の手数料単価が高いかどうか回答をお願いしております。

副会長： 当検討会のスタンスとしては、費用対効果も考え、選択と集中を図っていくべきと考えます。今まではプラスチックのリサイクルを進めるために回収品目を増やしてきましたが、それは自治体の負担が増えることとなります。全体的に集中して行うことをある程度整理して、自治体の行政コストを減らすことも考えていかなければならないと思います。例えば、燃やせるごみ袋、燃やせないごみ袋の5リットルが必要なのは分かりますが、製造枚数が全体に占める割合が少ないので、製造するコストや店舗にストックする手間も掛かることを考えると、今後の見直しの際には整理していくのも良いのかなと思います。

事務局： ありがとうございます。ご意見を参考としながら提言に繋げていきたいと思っております。

～事務局より説明(資料1(2)「粗大ごみコールセンター方式メリットデメリット」)～

会長： 粗大ごみコールセンター方式メリットデメリットの表で、不燃回収日収集の市デメリットとして全てごみ処理場にて埋立処理となるとなっていますが、何か手立てを加えることによって回避できる可能性はありますか。

事務局： 粗大ごみを不燃回収日収集にしますと全てごみ処理場への運搬となります。方策としては、ごみ処理場で燃やせるごみと燃やせないごみに分け、燃やせるごみを破碎処理した後に焼却施設に持って行き、焼却するといったことがあると思います。

副会長： 現状、粗大ごみは埋立処理していると思います。さらに 100 トン増える理由が分かりません。

事務局： 粗大ごみの中でも燃やせるごみ、燃やせないごみを分けており、焼却施設で焼却するもの、ごみ処理場で埋立するものがあります。粗大ごみの 1 年間の収集量は 300 トン強あり、うち 100 トンが焼却施設、残りの 200 トンが埋立場へ運搬しております。不燃回収日にまとめて回収すると全てごみ処理場に運搬するため、今まで焼却施設で焼却していた 100 トン強が増えるということです。

委員 A： コールセンター方式では、粗大収集委託費用が別途掛かっている、収集事業者に別途委託しているという理解でよいでしょうか。

事務局： コールセンター方式では、コールセンターを委託する費用、粗大ごみを収集する委託費用が別に掛かり、現在はシルバー人材センターが担っております。

委員 A： コールセンター委託費と粗大収集委託費の約 3,300 万円の内訳を教えてください。

事務局： おおよそになりますが、コールセンター委託費が 800 万円程度、粗大収集委託費が 2,500 万円程度です。

副会長： 室蘭市では、燃えないごみの収集日に粗大ごみをまとめて回収しており、焼却施設で破碎処理しています。燃えないごみの収集日に回収すると、月 1 回の収集日に出し忘れると翌月まで待たなければなりませんので、市民からの不満はあります。燃えないごみの収集量は少ないので、収集日は月 1 回となっていますが、収集コストを掛けて月 2 回にすればデメリットはなくなると思いますが、月 1 回の方がトータルコストは減っているの、そちらの方が良いということもあります。全体的にコストが安く済むのは、コールセンター委託費 800 万円がなくなる不燃回収日収集ですが、月 1 回の収集日に出し忘れた際の煩わしさをどう考えるのか、メリットとデメリットが両方あるので最終的に市民がどう考えるかということになると思います。

事務局： ありがとうございます。

会 長： 参考までに東京都では、粗大ごみはコールセンターとインターネットを通じて予約する方式ですが、月 1 回位しか予約がとれません。全然順番が回ってこないという状況ですので、月 1 回以上、回収してもらえなんて凄いなと思いました。

事 務 局： 有料化を実施した当時は、粗大ごみも週 1 回、燃やせないごみとか資源物の日に回収していたと思いますが、収集量が少ないので月 1 回の燃やせないごみの日に粗大ごみも収集し、コスト負担の軽減を図ってきた経緯にあります。

～事務局より説明（資料 1（3）「リサイクルセンターのあり方について」）～

委 員 B： 施設を見学しましたが、今の施設から手選別主体の施設に移行した場合、運営ノウハウのある事業者が恵庭市にはありません。どこか他のところから指導を受けることは考えていますか。

事 務 局： 長沼町で就労継続支援 A 型作業所で運営しているところがありますので、指導ではありませんが、その現状を把握して恵庭市でできるバージョンに落とし込めないか考えております。

副 会 長： 袋収集の場合は色々なものが入る可能性があり、また、袋から破って中の物を出す時にガラスびんとかは割れてしまうので、割れた状態で分別をする作業員さんが、現地を見てかなり大変だなと思いました。比較対象として室蘭市では、リサイクルはかご収集をしています。月 2 回、かごを置いて色別のびん、アルミ缶、スチール缶、全部で 8 つ位のかごと、ペットボトルは大きいので袋で回収しています。当初は、中身が入っているものもありましたが、かなり指導し、現状ではかなりきれいです。荷台にホロのついたトラックで回収するので収集費用は高くなりますが、分別されるレベルがすごく高く、回収されたものの質が良いので、分別する作業員さんの手間がかなり楽となり作業環境も良くなりますので、全体的なリサイクルの手間を考えると分別されたものを回収するのが 1 番良い方法だと思います。収集は、ステーション 2 か所ごとに 1 か所、かごを置く場所を設置しています。恵庭市では戸別収集のため、戸別でも可能かもしれませんが、たぶん複数でシェアしなければならないので、市民に負担をお願いすることになるかと思います。回収されたものの質は、不特定多数の人が出す場合はかご収集の方が良いと現場を見ていただければ分かると思いますが、袋収集とする場合は、いかに中に変な物を入れないか、ルールを厳しくしてガラスびんが割れないような工夫が必要だと思います。どちらの収集方法が良いのかすぐには言えませんが、作業員さんの就労環境を良くするのであれば集める物の質をどういう風に高めるか、分別状況を良くするためにガラスびんを袋収集とは別に回収するなど、回収する時の工夫を検討する必要があります。

事務局： ありがとうございます。本日の議題で上げさせていただこうと考えておりましたが、資料 14 ページにびんの分別を市民にお願いするののかということも検討材料です。ごみ処理は、市民の分別行動、収集、施設での処理という一連の流れがあり、施設側でいくらきれいにしたとしても、市民の分別が悪ければ施設での分別も困難なものになると考えております。ステーション収集では、例えば海外では、白びん、茶びん、その他びんのボックスを置いておくということも、ドイツやニュージーランドの状況を見はしますが、恵庭市では戸別収集ということを考えると、びん、缶、ペットボトルをひとつの袋に入れるのではなく、びんは別の袋にして、更には、無色、白色、その他の色に分けることを市民にお願いするのかが検討が必要です。また、それをパッカー車ではなくトラックでの運搬にすれば割れびんも防げ、残渣も減っていくのかなと想定しております。割れびんが少なくなると色別に分かれていけば、就労支援の作業所でも選別が更にしやすくなるのかなと、そういった繋がりも考えているところです。

委員 C： 私も 3 月に初めてリサイクルセンターを見学しました。倉庫のようなところで寒い風にさらされながら、ベルトコンベアの大きな音と向き合いながら、恵庭市民のごみ処理を手作業でこの人たちがやっているのかと思うと悲しくなりました。働く人の環境も大切だなと感じました。また、ごみを捨てるということに掛かる経費も改めて実感できたので、見学できたのは良かったなと感じました。私たち市民が経費を掛けずにできることがあるとしたら、びん、缶、ペットボトルを分けることから始められるのではと思いました。私の実家の宮崎では、15 年位前から、副会長の言ったような回収方法に変わって、びんはラベルを外して中も洗って乾燥させてください、プラごみはお弁当に入っているような醤油の袋まで全て開いて洗って乾燥して捨ててくださいという捨て方になりましたが、今となっては理解ができます。プラごみについては、袋を人の手で破って処理していることに驚きましたが、プラごみの中にカセットコンロのガス缶が入っていたことにも驚きました。皆さん見えないように上手に袋に紛らわせているんだな、それをきれいなものと汚いもので人の手で分けているんだな、今でこそ臭いも目立ちませんでしたが、7、8 月頃になると臭いもしながら暑い中で作業をするのかなと思うと、市民への周知や啓発が大事だと思いました。

会長： ありがとうございました。

(2) 第 2 回ごみ処理恵庭モデル検討会議

～事務局より説明（資料 2（1）「市民が主体的に関わる課題－発生から収集まで」

「廃棄物管理課の電話受理件数の推移」「令和 2 年度ごみ組成調査の状況」～

会長： 廃棄物管理課への問い合わせが非常に多いなと思いました。問い合わせする方は、年

年齢層や、または何か特徴的なものはあるのでしょうか。

事務局： 年代としては高齢者が多い印象ですが、電話の受理記録簿に年齢等を記載する項目がないので、年齢層のデータは拾いきれていない現状です。一人当たり何分かかっているのか、何歳代くらいの声なのか、そういうことも追加しながらデータ収集を進めていけばと考えております。また、戸別収集を実施している関係で収集漏れに関する内容も多いです。他にも様々なご意見やご要望をいただいている状況です。

副会長： 私もごみ処理場の見学へ行き、実際に埋め立てされたごみを拝見しました。資料の19ページで燃やせないごみの中に燃やせるごみが32.5%入っているということで、分別ルールが変わって、本来であれば焼却施設に出すものを従来通りのルールと勘違いして出していることも多いと思いますが、具体的にどのようなものがありますか。

事務局： 焼却施設の稼働に合わせて分別の変更を行いました。燃やせるごみは、旧焼却場が稼働していた時の分別を引き継ぎましたが、平成31年度に改めて燃やせるもの、燃やせないものを区分しまして、プラスチック製品、ゴム、革製品が燃やせないごみから燃やせるごみに変更となりましたので、それらが多いと思います。

副会長： わかりました。処分場に入れると汚染を起こすようなものがあり、そういうものが多いと処分場で不具合が起きる可能性があるので聞きました。

不適正排出の中では小型家電製品も入っています。室蘭市では回収実績は多くありませんが、小型家電製品の回収ボックスを市内7か所くらい設置しております。回収ボックスを設置しておくで燃やせないごみに出すものが結構減ります。恵庭市では小型家電製品の回収品目を広げていくという考えはありますか。

事務局： 小型家電製品は市役所、恵み野出張所、島松出張所の窓口で回収しております。令和2年度までは有償で処分できていましたが、令和3年度からは逆有償となり、市が費用を支払って処分するといった市況の変化があり、品目を絞り特定品目だけの回収としました。その結果、令和3年度の実績が手元にはありませんが、小型家電製品の回収量はかなり減ったという状況にあります。小型家電製品の回収を広げてはどうかというご意見だと思いますが、逆に特定品目に絞らざるを得ない状況となっております。

副会長： 全体コストを下げるという意味では品目を絞るのは仕方ないと思いますが、量的に小型家電製品13.2%は多いので、市の処分場の容積の問題もありますし、処分場に小型家電製品が埋まる状況もありあまり良くはないと思います。今後、将来的な処分場の運営を考え、費用は掛かっても小型家電製品の品目を拡充して回収量を増やしていくことも検討する必要があるのかなと思います。

事務局： ありがとうございます。ご意見いただきました通り、特定品目以外の小型家電製品を業者へ引き取らせた際の費用負担も検討材料として、令和2年度、3年度の実績を次回資料として提出したいと思います。

～事務局より説明（資料2（2）「市が主体的に行う課題－発生から収集まで」

資料2（3）「市が主体的に行う課題－収集後中間処理、最終処分まで」

「容器包装リサイクル協会の資源化の状況」「資源残渣率」）～

委員 A： 市が主体的に実施するごみ減量の取組みとして、啓発の関係では対象が小中学校で、子供が多いように思います。実際にごみを分別するのは社会人なので、出前講座や施設見学が重要なのかなと思いますが、どのような働きかけを考えていますか。

また、新しい焼却施設の見学の実績はどのくらいあるのか教えてください。昨年度末に施設を見学しましたが、百聞は一見に如かずというか、実際に見ると取組みに前向きになれる、よく分かる場所がありますので、重要だと思います。

事務局： 啓発には百聞は一見に如かずというところで、施設見学や出前講座を受け付けておりますが、この2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で施設見学を休止しており、正確な数字が今はありませんが、回数はそれほど多くありません。新しい焼却施設の見学は、小中学校、老人クラブの方々が見に来ていただいておりますが、どのような施設だろうという程度にとどまっております。リサイクルセンターも出前講座を受け付けておりますが、老人クラブの方々は階段が登れず、ルートが全部見られないという状況もあります。そのため、一見といったところに焦点を当てて、施設の動画などでの啓発も今後検討していかなければならないと思っております。働きかけは、小中学生には現在あまりできていない状況にありまして、副読本の「のびゆく恵庭」を小学3年生から4年生で学習しますが、その中にごみの行方といったものがあり、先生がそこで取り上げていただいた際には施設見学に来ていただくといった程度になります。

事務局： 補足ですが、実際のごみ分別をする人は大人で、主婦であったり、単身世帯であったり、ご自分でされる方が多いと思います。小中学生に啓発する意味としては、ごみの環境負荷への影響から、環境に興味を持っていただくということがあります。その他に小中学生にごみを知ってもらうことで、子供を介して大人の分別が促されるという側面も期待できるのではないかと思います。例えば、子供が親に分別間違っているよと、子供から言われることで大人が適正な分別に繋がっていくことも期待していると考えております。

会長： ありがとうございます。私もA型就労施設だったと思いますが、そこで分別しているところを見学したことがあります。夏場なのに全然臭いもしないので、どういった取り

組みを行っているのか聞いたところ、ごみが集まってくる範囲の地元の小学生には必ず一回は施設を見に来ることになっていると話していました。子供が家庭でチェックする役割を担っているということでした。

話は変わりますが、子供がいる家庭では子供に対しての教育がすごく重要だと思いつつ、恵庭市の人口構成を見ると60代、70代が多いなと思っていて、この世帯へのアプローチも今後考えていかなければならないなと考えており、私たちの方から提言できるというのではないかと思います。

委員 D： 私も子供を育てているので、子供を通して啓発し、分別を促すのは良いことだなと感じています。ごみの分別は変わる度になかなかついていけない状況で、いつも友達同士でこれは何の分別かという話になっています。ごみ袋が変わるタイミングで出前講座や親子へのワークショップをやっていただけると興味を持ってもらえるのではないかと思います。

ごみを減量するために個人でできることを何となく分かっている人は、スプーンなど食器を貰わないとかをできると思いますが、そこまでの周知ができていないと市民の皆さんは何をすればいいのか分かっていない状況だと思います。エコバックもレジ袋が有料なので使っているという状況で、一時マイ箸も使うようになっていましたが、時が経つとマイ箸を持っている人も少なくなって、今度はマイボトルとか、その時で色々と変わっていきませんが、それを続けていくための仕掛けや仕組みづくりが大事だと感じています。最近では、大企業が最初からパッケージをつけないという試みをしてきていますので、ごみ減量を考えるのであれば、恵庭市にも大企業はたくさんありますので、パッケージに関するご協力いただけるように発信していければいいのではないかと思います。実際にごみを捨てる時に、私たちもパッケージをはがして分別するのが大変ですし、先ほどお話したびんの分別も行うとなると、できる限りお互い少しずつ歩み寄れるようなごみの減量を、市民目線ですけれども、優しくやっていただけるとありがたいです。

生ごみについてですが、生ごみは臭いがするので、大きい袋よりは小さい袋の方が使いやすいです。大きい袋では、回収日までその袋をいっぱいになると臭いが出るし、冬ならまだいいですが、だからといって冬に凍った生ごみを出されると機械が壊れるといったことも考えると、生ごみの袋は小さいほうが使いやすいです。使いやすさやコストのことも考え、どうしていくか考えなければならぬと思います。

事務局： 4月1日から燃えるごみが1リットル当たり2円から3円に1円値上がりしました。ごみ処理が改めて身近になるタイミングを捉えて啓発していきたいと思います。今年度は広報を使って市民への啓発も1年間掛けて行いたいと考えています。併せて高齢者は紙媒体を読んでもらうので、広報と同時に年3回程度、ごみ減量大作戦を用いて工夫しながら啓発していきます。

生ごみは回数を多く出すと思いますし、3リットルが一番売れている状況もありますので、12リットルを廃止するかどうかを含めて袋の容量や種別も改めて検討していきたい

と思います。

委員 D： 小型家電製品はじゅんかんコンビニへ出すことが多いと思います。粗大ごみコールセンターへ申し込む人は、仕事をしている世代ではなくて高齢者の方が多く、また、平日に市へ持って行ける人も高齢者が多いのかなと思います。それ以外の方は24時間対応のじゅんかんコンビニに回収して貰う人が多いのかなと思いますし、私自身も近くに住んでいて利用している人が多いと感じています。わざわざ分別して持って行くというのは何か個人にメリットがあるから行くので、びんの回収も含めてうまくできると良いと思います。

事務局： 恵庭市の黄金地区にじゅんかんコンビニ 24 を運営するマテックがあり、そこで小型家電製品の回収も行っております。昨年度から市の方でもマテックでの回収量を把握するようにしておりますので、引き続き回収量を把握するなどして注視しながら啓発していきたいと思います。

委員 E： ごみ減量の市の対応策で動画による啓発とありますが、この動画はホームページから見ることできますか。

事務局： 今はホームページからユーチューブのURLを貼りつけて見られるようにしたいと考えておりますが、企画課で恵庭市の公式アプリを作る話もありますので、そこに載せることを目標にしたいと考えております。

委員 E： 恵庭市に住んでいる方でも分別に結構困っている状況で、一時的に移り住んでいる大学生や専門学校生には分別が余計に難しいと思いますし、以前に住んでいた町の分別をそのまま恵庭でもしてしまう学生が周りには多かったのですが、施設見学に参加した学生は正しい分別をするようになりました。そういった学生の中で、自分たちで分別に関する動画を作ってみようという動きがあり、そういったものを取り入れていただければ、友達にも自分たちが出ているので見てと言いやすく、広めることもできるのかなとも思います。

事務局： ありがとうございます。ぜひ廃棄物管理課とご協力いただいて動画の作成など一緒にできれば良いなと思います。生活環境部は、まちづくりチャレンジ協同事業なども所管しておりますので、大学生版などもご利用いただいて一緒に作っていただければ良いなと思っておりますので、よろしくお願いします。

委員 C： アパートに住んでいる高齢者宅に訪問した際に、高齢者から町内会に加入していないので広報が来ないという話を聞くことがあります。その辺の対応はどのようにしていますか。

事務局： 高齢者に対するアプローチについてですが、恵庭市では町内会加入率が 58.7%くらい

で、町内会に加入している人は町内会の回覧板が回りますが、未加入の人は回覧板が回らないという現状があります。広報は全世帯に配布しておりますが、ごみ減量大作戦などの市のお知らせは回覧版を通して周知しているため、未加入の人は目に触れる機会がありません。高齢者の約 40%が見る機会がないということで情報発信のあり方が議論され始めております。生活環境部の他の課の所管になりますが、情報発信のあり方について今年度の市民アンケートを実施することとしており、町内会連合会とも議論を重ねながら、手法については今後検討していく予定となっております。

委員 F： 高齢者へのアプローチが大事だと思います。高齢者はごみの分別が変更になった時に広報や分別辞典も送付されてくるので一生懸命見ているのですが、覚えることも難しいし、分別が変わったという記憶があれば見て調べますが、何十年も行ってた分別を思い込んでいるので、正しい分別の認識には相当時間が掛かると思います。若い人は分別を迷ってもネットですぐに調べることができますが、高齢者は情報難民なので、いくらそういうところを整理しても取り残されてしまいます。高齢者は悪気がないけれども、とりあえず燃えないごみ袋に入れておけば大丈夫だろうと思っていると思いますので、丁寧な対応と粘り強く何回も情報発信を行う必要があります。また、高齢者向けには紙媒体も見やすくする必要があります。高齢者にとって白黒印刷の広報は見えにくく、小さい字やグレーの薄い字は見えません。高齢者用の資料や動画が必要で、作り方も大事だと思います。

事務局： 高齢者の方は、思い込みや燃えないごみで出しておけば大丈夫だろうという考えもあるのかなと思います。私たちの方でも高齢者の思い込みを変えていくような取り組みを検討していきたいと思います。文字の見やすさなども昨年度からユニバーサルデザインフォントを活用するよう廃棄物管理課内でも共有しておりますので、良かった点や直した方がよい点を教えていただけるとありがたいです。

副会長： 20年位前はいかにリサイクルをするかということでしたが、無限にお金を掛けられなくなっておりますので、費用対効果を考えなければなりません。先ほども話しましたが、市民の方はごみ袋の購入費用でごみ処理費用を全て賄っていると思っておりますが、実際にはそれプラスアルファの税金負担によって賄われています。市民の方に収集から処理までのくらいの費用が掛かっているのか知っていただく必要があります。先ほどのリサイクルセンター施設の話でも、施設にお金を掛けるのか、きれいなものを収集するために方法を変えるのか、その時にやめた方が良いものが出てくると思います。室蘭市では、その他プラスチックの処理単価が非常に高いので今年4月から収集をやめました。今までは室蘭市内の新日鉄で受け入れていましたが、焼却施設を建てたので、そこで焼却して発電したエネルギーを回収することを選択しました。それを良いとは言いませんが、費用対効果を考えると、新しい施設にお金を掛けた分、収集を止めることを市民の方には受け入れていただきました。今までと違うのは、リサイクルを増やしていけば良いということではなく、リサイクルは収集費用が殆どなので、一生懸命リサイクルしているのに集めれば集めるほ

ど自治体はどんどん貧乏になってしまうため、何かを止めなければならないということです。リサイクル施設の整備費に 30 億円掛かるとなっておりますので、施設整備をするのであればどこかを減らさなければならず、何かを整理しなければなりません。恵庭市のペットボトル 1 トンの収集費用と処理費用がどの位なのか併記して全体像を示し、今後、リサイクルをどのような形でやっていくのか考えた方が良いと思います。この検討会でも全体的なコストを考えないと取捨選択する時に判断ができないと思いますので、国の方針とは違いますが、リサイクルの種別を増やすと自治体の負担が増えますので、その部分をもっと目に見えるようにしていただければ、これはやっぴこ、これは止めようといった議論をしていけると思います。

事務局： コストの話を中心にしていただきましたが、今日の議題の中で家庭ごみの指定袋の売れ行きなどがありましたが、約 10 年前の有料化実施当初では 2,000 万円程度の指定袋の製造経費が 6,000 万円程度と、約 3 倍になっているという状況もあります。また、焼却施設が休止していたので運営費がありませんでしたが、令和 2 年から焼却施設が稼働して、その分の建設コストや維持管理コストが増えてきております。市民の皆さんに処理費用を負担していただいた状況とは現状が少し異なっているということも認識していただければと思います。

会長： ありがとうございます。資料 14 ページから資料 27 ページの話になっていまして、非常に重要なところですので、ここに向かって意見があれば出してください。

事務局： これまで恵庭のごみ処理の現状を、実際に目を見て生活者の視点でも感じていただきながら、生ごみ 2 円、燃やせるごみ 3 円、燃やせないごみ 4 円、資源は 0 円といった手数料のあり方が良いのかどうか、恵庭市は全道の市の中でも富良野市に次いで全道 2 位という高いリサイクル率を誇っているという現状もあり、恵庭市の良いところとして残していくべきもの、逆に捨てていくもの、取捨選択しながら提言へ繋げていければいいなと思っております。次回の検討会には、平成 19 年に実施したごみ減らし市民会議の提言書などを参考にご用意したいと思っております。

会長： 身の丈に合ったという表現がありますが、意図するものは何でしょうか。持続可能という意味合いですか。

事務局： 7 万人の小規模都市ですので、あれもこれもできないといったところをご理解いただきたいという意味合いです。

会長： 恵庭モデルとなっておりますので、現実的かつ未来に向けて提言できればいいなと思います。

副 会 長： 室蘭市ではごみステーションが多いので見直しを行いますが、収集者はGPSを使ってiPadのようなものを持って回っています。収集経路は経験者の人にはしか分からないですが、その経路もPadを使うと分かります。ごみ収集においてITの活用が進んできており、恵庭市では戸別収集で経路がより複雑だと思いますので、収集者がPadを持つと有効だと思います。先ほど高齢者への配慮の話がありましたが、今後10年から20年で高齢者の問題が一番大きくなると思います。室蘭市では、ごみステーションにごみを出せない方をどうするかという話ですが、恵庭市では戸別収集なので、出せないという方もいるかもしれませんが、分別ができない方をどうするのかという問題になると思います。収集の作業員の方は、戸別に回っているので、この家は分別ができているのか状況が分かっています。どこの収集先でどういった問題があるのかを集積して、いろいろな情報を入れると新しいことにも取り組みやすいと思います。学生に聞くと、ごみの分別が分からない時はスマホで調べており、チラシを見ている学生はいません。スマホを持っている高齢者もいるのでITを活用して動画での啓発も含めて対応を行い、そういうものに手が届かない人には、収集の作業員の方が戸別収集の際の分別が難しいといった情報を活用するとカバー率が上がると思います。ITはコストがさほど掛からないので、ひとつの新しい取り組みとして検討してみてください。

事 務 局： 戸別収集を行っている現場の状況がよく分かり、高齢者のごみ分別状況や変化を知ることができることもあろうかと思えます。福祉部局とも連携しながら、10年先から20年以内に起こるであろう高齢者のごみ対策をAIやITを活用しながら戸別収集も続けていきたいと思えますので、知恵をお借りしながら検討を進めていきたいと考えています。

(3) 第3回以降ごみ処理恵庭モデル検討会の進め方

～事務局より説明（資料3「第3回以降のごみ処理恵庭モデル検討会の進め方」）～

会 長： 10回で提言書の素案が出てきて意見交換に1回か2回は掛かるとすると12回位になるかもしれません。あと6ヵ月なので月2回位の開催ペースになってくるかと思いますが、皆さんの意見はどうでしょうか。

副 会 長： 議論はインターバルが空くと忘れてしまいます。11月がゴールと決まっているということですが、議論が進めば回数を減らしてもいいと思います。全体的にまとめたデータがいつでも見るように手元があれば、より集中的に議論をしていけると思います。また、次に何かと考えながらだと事務局の準備も難しいと思いますので、ある程度どの議論をするのか、収集から処分、リサイクルなど項目に穴が開いていて埋めていくように、今日と来週でこの結論を出すという方向で集中してやっていくと良いのではないかと思います。

事務局： 大学の先生と大学生がいますので夏頃には集中してやりたいと考えており、1ヵ月の間に数回やりたいと思います。それぞれの体系の穴埋めをしていくようなこととも併せてやっていきたいと考えています。

会長： 他にご意見等ありませんか。
(委員からの発言は無し)
なければ事務局にお返しします。

以 上